

第276回
株式会社テレビ新潟放送網
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成23年3月28日（月）午前11時00分より
- 2 開催場所 テレビ新潟放送網本社会議室
- 3 委員総数 8人 出席委員6人

出席委員

豊口 協	委員長	大矢 純一	副委員長
笠井 明	委員	吉原 浩	委員
碓井 真史	委員	田村 明子	委員

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
専務取締役（報道・制作・国際担当）	奥野富士郎
常務取締役（営業・事業・編成担当）	永原 良太
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長	竹石 尚史
編成部長	中川 保彦
合評番組プロデューサー	大橋 義宏

事務局	海津 智洋	紫竹 聡子	水野 明子
-----	-------	-------	-------

4 議 題

1) 番組合評

「近未来研究所～科学技術の未来をリサーチ！～」

[放送 : 2011年2月20日(日) 16:30～17:25]

(説明 : 番組プロデューサー 大橋 義宏)

2) 会社報告

①東日本大震災対応報告

(報告 : 編成局長 駒形 正明、報道制作局長 竹石 尚史)

③2月の視聴者の意見。 (報告 : 視聴者相談室長 海津 智洋)

④講じた措置、公表など定例の報告等。(報告 : 番組審議会事務局)

3) その他

5 審議の概要 (委員の意見)

会社側から、この番組は最新の科学を紹介することで身近な生活がこんなふうに変わって行くんじゃないかという情報を視聴者の方々に提供できればと考え企画された番組であること。多岐にわたる科学技術の中でもこれからの未来で生活にかかわる身近な分野に絞って新技術を紹介しており、すでにこんなことが出来ているんだという現状を具体的に知っていただくことで、日本の科学技術の素晴らしさや地元新潟でもこんな先進技術が進んでいるんだということを視聴者に伝えられたらと思いい制作した番組であることなどを報告した。

●日本では大学大手や大企業だけでなく中小の企業でもいろいろな技術を開発しているところがあるんだと思った。楽しく見れたし元気ももらえたと思った。

●諸橋アナと北村演じる研究所長の掛け合いも面白かったが、タレントの研究所員たちが「スゴイ！」と言っても「本当にスゴイの？」とってしまうので、もう一人科学技術の専門家を入れて辛口のサポートや説明があれば信用性が増したかもしれないと思った。

●いろいろな技術が紹介されていたけれど物凄く驚いたかというところでもない。見てびっくりするような目玉技術（作品）が2つか3つあるとぐいぐい引っ張られて見たのではないかと思った。

●「近未来研究所」というタイトルだが、一番盛り上がったのは未来のことではなくて大正時代の電気自動車デトロイト号の話だった。デトロイト号を復活させるというのも楽しいし、イベントなどで最新型の電気自動車と併走させるというのも面白く、庶民に与える影響も大きいと思った。

●未来や科学とほど遠いイメージの北村氏を研究所長に起用したのは面白かったし、未来や科学技術をあまり大上段に構えなくて、ちょっととぼけてくれるくらいで良かったのではないかと思った。

●「未来もの」「科学もの」は昔子供たちが憧れていたもの。万博などでも人気で「未来を信じて」「科学って素晴らしい！」という感じだった。でも最近の「未来」や「科学」の話は暗い感じで「近未来」というと、その後に悪いイメージを感じてしまいがちな現状があると思う。この番組はそんなイメージを払拭

して近未来や科学に対して子供や大人たちに夢やワクワク感を届ける企画なのかなと思った。

●昔の「科学の未来」は「こ～んな大きなものが、スゴイものが出来る…」という類のイメージだったが、番組のメッセージとしては今の科学の未来イメージは、それだけではなくて「困っている人を助けるんだ」「ハンデキャップを持っている人のハンデを少なくするんだ」というそういう夢とか希望とかを与えようとしていることなんだと思った。

●電気自動車とロボットと新ソフトに大別されていたがアラカルト式で見やすかったし、見て得したような気がした。

●諸橋アナとタレントたちとの掛け合いも楽しく、来年の研究テーマには「なんでもいい」としていて「いいものは自由な発想から生まれる」というコメントはなるほどと思った。

●新発田のロボワン（2足歩行ロボット格闘競技大会）の紹介ではすごくレベルが高くて驚いた。

●「近未来」というタイトルだが紹介されたもののほとんどが実用化レベルのものであり、更にこんなものが追究できるという研究中的のものでいいので知らない技術などが紹介されればよかったと思った。

●大正時代にすでに電気自動車があって、ガソリン車よりも早く時速100kmを記録していたなどという過去の実実は本当に驚かされた。

●時速370kmも出せる電気自動車というのは本当に必要なのか。オーバースペックに感じた。電気自動車というのはエネルギー効率の向上ということが課題であって、自然に優しい移動手段であることこそが重要なのではないかと思った。

●昭和大学の医療用患者ロボットは、医療技術の特に手技にかかわるものについての習得向上はとても難しく、臨床の難しさを改めて考えさせられたと思った。

●番組は「研究所」と銘打って様々なところ取材した労作だと思う。個人の好みによると思うが登場するタレントが本筋テーマへの集中を妨げているように感じた。

●「近未来研究所」というタイトルから夢の中に出てくるようななにか新しい発見が出てくるんじゃないかという期待感があったが、出てきたのはほとんどが実用化されているか或いは実用化に向けて出てくると思われる想像の範囲内のものだった。

●この番組が東日本大震災が起こる前の放送でよかったと思った。電気エネルギーについて無尽蔵ではないし、将来的な展望について様々に考えさせられた。

●教育番組風ではあるが、タレントで柔らかくしており時間帯も16時台で子供や学生にも一緒に見られたのではないかと思った。

●「見えない」人が「ものが見える」というような新しい医療のための技術については驚いたし素晴らしいと思った。

●新潟市の新交通システムの具体的な選考に入っているが、震災の影響も大きく出てくると思う。人間らしさを残しつつ将来の街づくりにはエネルギーについてもっと考えていかなければならないと思った。

●科学技術の話であれば子供に夢を与えるような具体的な何かストーリーがある構成であればもっとアピール性が強かったのではないかと思った。

●エネルギー供給として火力発電、水力発電に限界を感じて研

究がなされ、風力発電や地熱発電、波動発電などの研究が進んでいた時期があったが、原子力発電がOKになってからはそれから風や自然エネルギーの研究が止まってしまった感じがある。電気エネルギーをどうやって作っていくかというのは、そうした先人たちの跡が残っているのだから研究をこれからかなり進めていき再びこれらのエネルギー技術が具体的に姿を見せる日も来ると思った。

●科学技術には長い歴史がある。特に日本は資源が無い国であり、科学技術そのものが資源なのだと思います。

6 会社側の報告

1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

2月……123件。

2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(平成23年2月28日)から昨日(平成23年3月27日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取り消し放送はありませんでした。

7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1) 前回、第275回審議会では「～オーストリアからスキーが伝わって100年～スキーの新潟これからの100年～」を審議いただきました。委員の意見は議事概要にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

2) 番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧しました。

8 今回の第276回放送番組審議会の公表

1) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議

事概要の書面を準備しています。

- 2) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3) インターネットのT e N Yホームページに議事概要を掲載しました。

9 参考事項（委員への配布資料）

- ・ 2月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・ 2月の単発番組制作一覧
- ・ 民間放送新聞（2/23, 3/3, 3/13, 3/23号）
- ・ BPO 報告（No. 94号）

以上